

社 報



請負崩壊

関西IT百選

関西サイエンスフォーラムが選定する、2009年度の「関西IT百選」に選ばれました。

関西サイエンスフォーラムとは、先端科学技術分野で我が国及び関西の優位性を確立し、産業競争力の強化を図ることを目的に、関西経済界が力を合わせて設立、関西の科学技術領域での最先端研究促進、グローバル貢献、人材育成を行うための活動を行っているNPO団体です。

当社のピンポイント工法が受賞の対象となりました。



建設業界の状況を漢字四文字で表現してみました。現状は、不況というレベルを超越して悪化し、請負が崩壊したと感じます。

請負とは、請負とは、契約の一種であり、当事者の一方(請負人)が相手方に対し仕事の完成を約し、他方(注文者)がこの仕事の完成に対する報酬を支払うことを約することにより、成立する。

請負は有償契約であり、仕事の完成と報酬は対になるべきものです。文面で、請負の意義を書くと、現在も請負契約は存在して、その定義が変わってしまったということではありません。

請負の報酬は、労働の対価ではありませんから、その報酬額は、必ず労働対価を上回るものではありませんが、賢明に努力し、専門性を発揮すれば、労働の対価を上回る可能性がなければ意味をなしません。

請負った仕事を、懸命に仕事をして、労働の対価を上回ることがなければ、誰も請負しなくなります。

労働と請負が区別されるのは、まさ

にこの点にあると言えます。

しかし現状は、仕事の量があまりに少ないがために、ダンピングをして、仕事を取る業者が次々に現れ、労働の対価よりも低い報酬であるのが当たり前のようにになっています。

請負者のプライドはどこへ行ったのでしょうか。発注者は請負人に、その能力と専門性を評価して、仕事を発注するべきであるのに、価格だけで発注する姿勢を強めています。

請負制度というのは、価格よりも能力と専門性を重視しなければ、仕事は完成をしても、その質が悪くなって、意味を成しません。請負を価格だけの競争とした場合、請負は崩壊したと言えるでしょう。

願わくば、現在の状況が、リーマンショックに代表される需要の劇的な後退による、一時的なものであることを期待するのみです。



当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になります。

交通事故(車全損)発生!

2月12日(金) 午後5:15頃

ETCレーンに進入しようと、カードの挿入を確認しようと、わき見をした際、縁石に乗り上げ、その反動で左側壁に接触破損したものを。

運転者:森迫章太さん

発生場所:阪神高速 喜連瓜破入口

被災者:なし(車は全損となりました)



ケガなくてよかったです。

車の運転も、「ご安全に！」

2010年 安全成績

■現場災害 H22.1.1-H22.3.19	
休業災害	----- 1
不休災害	----- 0
物損災害	----- 0
その他	----- 0
合計	----- 2
■交通災害 H22.1.1-H22.3.19	
人身災害	----- 0
物損災害	----- 1
合計	----- 1